

まだまだ暑さには注意が必要

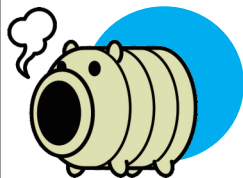
高温傾向が続きます

これを書いているのは八月二十一日です。ここ数日間は、朝晩の気温が少し落ち着いたかなと言う感じもありますが、日中の気温はやはりやや高い状態が続いています。

気象庁が発表する季節予報を見てみると、九州北部はこれから先九月中旬までは、気温が高い状態が続くと予想されています。

ニュースなどでは熱中症などの記事を見聞きすることが少なくなりましたが、まだまだ厳重な警戒は必要ようです。

この暑さを乗り越えれば、秋がやってきます。体調管理には十分注意して、元気に涼しい季節を待ちたいですね。



神社うんちく帖

さて、今回もまた『古事記』神話の続きです。今回は死後の世界「黄泉國（よみのくに）」。

◆伊耶那岐神、黄泉國へ

愛しい伊耶那美神を忘れられない伊耶那岐神は、とうとう黄泉國まで追いかけていきます。死者の国の扉を開けて伊耶那美神が出迎えると、伊耶那岐神はこう言いました。

「美しき我が汝妹の命（妻）、吾と汝と作れる国、未だ作り竟えずあれば、還りませぬ」

つまり、まだ二人の国作りは終わっていないので、帰ってきて欲しいと願ったのです。しかし、伊耶那美神はこう答えます。

「悔しい哉、速く来ませず。吾は黄泉戸喫（よもつへぐひ）しつ。然れども愛しき我が汝兄の命（夫）、入り来坐る事恐し。かれ（なので）、還りなむを。しまらく（しばらく）黄泉神と相論はなむ。我をな視たまひそ」

残念なことに、このとき伊耶那美神は黄泉國の火で作った食べ物食べてしまっていたのです。しかし、愛しい夫がここまで来てくれたことはとても恐れ多いことですから、しばらく黄泉國の神と相談をすることにしました。そして、その様子を見ないように伊耶那岐神に告げたのです。

果たしてその約束は守られませんでした。

◆伊耶那岐神、妻の姿を見て逃げ出す

死者の扉の向こうに行ってしまった伊耶那美神は、なかなか戻ってきません。伊耶那岐神は左の髪に刺した神聖な櫛（湯津津間櫛・ゆづつまぐし）の太い歯を折って、一つ火をともし、扉の中へと入っていききました。

そのとき見たものは、全身に蛆がたかり、体中に八体の雷神がとり憑いた伊耶那美神の姿でした。これに恐れをなした伊耶那岐神はその場から逃げ出しました。

◆黄泉國からの脱出

伊耶那美神はそれに対して「吾に辱見せつ」、現代語で言えば「私を辱めましたね」と嘆いて、豫母都志許賣（よもつしこめ）を遣わして伊耶那岐神を追わせました。

伊耶那岐神は、髪につけていた魔除けの髪飾りを投げました。それは山ぶどうとなり、追っ手がそれを食べている間にさらに逃げます。

さらに追手は迫り、今度は右の髪に刺していた櫛の歯を折って投げました。それはタケノコとなり、それを追手が食べている間に逃げました。伊耶那美神はさらに雷神たちと黄泉の軍を差し向けます。伊耶那岐神は十拳劔を抜いて振り払い、黄泉比良坂（よもつひらさか）という黄泉國との境界にたどり着き、その脇になつていた桃の実を三個投げて、こごとく追い払いました。

伊耶那岐神は、その桃の木に礼を述べ、意富加牟豆美命（おほかむづみのみこと）と名づけました。

